

平成27年度事業報告

社会福祉法人 ロザリオの聖母会
共同生活援助事業所
ナザレの家あさひ

I 事業の概要

1 概括

今年度の大きなこととして、まずは開設予定であった新規ホームについて、物件の確保がうまくいかず、開設をすることが出来なかった事が挙げられる。建築基準法や消防法の規制などが厳しくなっていることが要因としてあるが、利用希望されている方が待っているため、来年度引き続き開設に向けて努力していきたい。

建物の修繕関係については、野中ハイツⅠ・Ⅱの外壁・屋根の改修工事を行った。このような大規模修繕については、現在使用している建物のほとんどで必要となるため、長期計画を立てて、計画的に行っていききたい。

次に、矢指ハウスにおいて、職員の介護の負担軽減のために入浴用リフトの導入と、それに伴い浴槽改修工事を行った。このような福祉機器の導入は来年度も予定しており、今後も必要に応じて活用していきたい。

利用者さん関係では、今年度は利用者さん3名が亡くなった。1名の方は高齢の方であり病気に起因して、2名の方はホーム内と外泊中の自宅にて心臓に起因する突然死であった。高齢化については、現在事業所全体の利用者の平均年齢も55歳を超えていることと、4割近くの方が60歳を超えているため、今後も高齢化に伴う介護も含めた支援をしっかりと行っていききたい。

最後に、虐待防止法が施行されて初めて、利用者1名の身体にあった痣について、原因が特定できなかったため、虐待防止に係る取り組みとして、援護市町村に報告を行った。自分達だけで処理するのではなく、しっかりと第三者にも入ってもらうことや、関係者で状況を共有することの大切さを改めて感じさせられた。今後も何かあった時には関係者と協力して支援にあたるということが続けていきたい。

2 施設（事業所）所在地 千葉県旭市野中4017

3 施設（事業所）開設年月日 平成18年10月1日

4 沿革

1996年（平成8年）	4月 1日	福祉ホーム野中ハイツ開設	定員10名
1997年（平成9年）	1月23日	若衆内ハウス開設	定員15名
2003年（平成15年）	4月 1日	横大道ハウス開設	定員21名
2004年（平成16年）	10月 1日	中川ハウス開設	定員25名
2004年（平成16年）	11月 1日	萩園ハウス開設	定員29名
2005年（平成17年）	5月 1日	東足洗ハウス開設	定員34名
2005年（平成17年）	9月 1日	立野ハウス開設	定員38名
2006年（平成18年）	4月 1日	グループホーム支援室開設	
2006年（平成18年）	10月 1日	ケアホーム旭・グループホーム旭事業所指定 共同生活介護・共同生活援助事業開始 野中ハイツ 福祉ホームからグループホーム に変更 東町ハウス開設	定員44名
2007年（平成19年）	4月 1日	大割ハウス開設	定員49名
2007年（平成19年）	7月 1日	グループホーム支援センター開設	

			荒井 隆一が所長となる
2007年(平成19年)	8月 1日	対馬ハウス開設	定員53名
2008年(平成20年)	3月 1日	下立ハウス開設	定員58名
2008年(平成20年)	7月 1日	東町ハウス転居	広原ハウスに改名
2009年(平成21年)	4月 1日	野中ハイツ定員10名から、野中ハイツⅠ定員5名・野中ハイツⅡ定員5名に変更。	
2009年(平成21年)	9月 1日	生沼ハウス開設	定員61名
2011年(平成23年)	6月 1日	矢指ハウス開設	定員65名
		震災に伴い立野ハウス転居(廃止)	
		西足洗ハウス開設	
2012年(平成24年)	1月 1日	小割ハウス開設	定員67名
2012年(平成24年)	2月 1日	仲町ハウス開設	定員72名
2012年(平成24年)	5月 7日	下立ハウス	震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	6月 7日	野中ハイツ	震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	11月 5日	若衆内ハウス	世話人室・喫煙室増設
2014年(平成26年)	3月27日	中川ハウス・対馬ハウス・東足洗ハウス・菘園ハウス	自動火災報知設備設置
2014年(平成26年)	3月31日	下立ハウス	スプリンクラー設備整備
2014年(平成26年)	4月 1日	折戸ハウスⅠ開設	定員77名
2014年(平成26年)	4月 1日	折戸ハウスⅡ開設	定員82名
2014年(平成26年)	7月16日	横大道ハウス定員6名から定員7名に変更	定員83名
2015年(平成27年)	2月 1日	横大道ハウス定員7名から定員6名に変更	定員82名
2015年(平成27年)	2月 1日	折戸ハウスⅠ定員5名から定員6名に変更	定員83名

5 実施事業及び利用者数

5-1 障害者総合支援法による指定事業

(1) 共同生活援助事業(介護サービス包括型)

(定員83名、平成28年3月31日現在の利用者数：78人)

- ア 野中ハイツⅠ(定員男性5人、平成28年3月31日現在の利用者数：5人)
千葉県旭市野中3622-2
- イ 野中ハイツⅡ(定員女性5人、平成28年3月31日現在の利用者数：5人)
千葉県旭市野中3622-2
- ウ 若衆内ハウス(定員男性5人、平成28年3月31日現在の利用者数：5人)
千葉県旭市ニ3500-11
- エ 横大道ハウス(定員男性6人、平成28年3月31日現在の利用者数：6人)
千葉県旭市三川横大道7542-2
- オ 中川ハウス(定員男性4人、平成28年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県野中4070-2
- カ 菘園ハウス(定員女性4人、平成28年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市菘園1250-4
- キ 東足洗ハウス(定員男性5人、平成28年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市東足洗2277-1
- ク 西足洗ハウス(定員男性4人、平成28年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市西足洗562-56

- ケ 広原ハウス（定員男性6人、平成28年3月31日現在の利用者数：6人）
千葉県旭市野中4075-4
- コ 大割ハウス（定員女性5人、平成28年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市野中3811
- サ 対馬ハウス（定員4人、平成28年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中4070-2
- シ 下立ハウス（定員男性5人、平成28年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市野中3625-1
- ス 生沼ハウス（定員女性3人、平成28年3月31日現在の利用者数：2人）
千葉県旭市イ1694-8
- セ 矢指ハウス（定員4人、平成28年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中3811-2
- ソ 小割ハウス（定員男性2人、平成28年3月31日現在の利用者数：1人）
千葉県旭市野中3850-6
- タ 仲町ハウス（定員男性5人、平成28年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市口897
- チ 折戸ハウスⅠ（定員6人、平成28年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中3985-4
- ツ 折戸ハウスⅡ（定員5人、平成28年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市野中3985-4

6 職員構成

別紙1のとおり

7 組織図

別紙2のとおり

8 27年度重点目標実施報告

8-1 福祉・医療情勢を注視しつつ施設・事業所の安定的運営に努めることについて

ア) 情勢（障害者総合支援法や医療・介護保険制度）を踏まえた施設・事業所の課題と展望について

今年度の大きな事としては、報酬改定が挙げられる。特にグループホームに関しては、他事業が厳しい改定の中でもプラス改定となり、特に支援区分4～6の部分に関しては大幅なプラス改定となった。これに関しては、国が今後の障害者施策の方向性を示したとも言える。そういった点においては「住まいの場」としてのグループホームのニーズは増え続けており、定員増はもちろん、支援の質を高めていくことも含めて、今後もさらなる充実を目指していきたい。特に職員体制に関しては、ここ数年少しずつ常勤職員を増やしてきてはいるが、全体の職員数のバランスを考えて、さらなる常勤化を図りたい。

イ) 計画的な人事異動及び中間管理職の育成・登用について

今年度は、常勤職員を1名増やすことが出来た。現在の常勤・非常勤職員の割合を考えると、まだまだ常勤職員が少ないため今後も経営状況を踏まえつつ常勤職員の増員を行っていききたい。また、中間管理職の体制の充実については、今年度は行うことが出来なかった

ため、来年度以降で行っていききたい。

ウ) 安定的な人材確保について

人材の確保に関しては今年度もなかなか苦勞することが多かった。ただ、実習に来た学生が実習後に非常勤として雇用につながったりと、今後に期待を持てることもあった。夜間の雇用形態については、数人のみではあるが非常勤に移行できたため、今後は人員の確保に努めて拡大していききたい。

エ) 職員の身分保障の向上について

適切な人員配置の見直しについては、常勤職員を1名追加。身分保障の見直しについては、介護職員処遇改善事業の加算を活用し、職員に支給を行った。

オ) 施設・設備の老朽化や環境改善対策の中・長期計画と資金確保について

老朽化対策として、野中ハイツⅠ・Ⅱの屋根・外壁改修工事を計画通り行った。また野中ハイツⅡでは浴槽の目地等からの水漏れが起きたため浴室の修理も行った。

矢指ハウスでは、職員の負担軽減を目的に入浴用介護リフトを導入し、その設置に伴い浴室の改修を実施した。

対馬ハウスにおいては、天井埋込型のエアコンが故障による交換をした。

生沼ハウスの世話人室の増築については、幾度となく検討を重ねてきたが、建物の構造や各法律等との問題から、増築ではなくハウスの近隣に別の物件を賃貸する方向に計画を変更し、次年度以降契約成立を目指していく考えである。

建物や設備の老朽化対策については、引き続きハウスの屋根や外壁の改修や介護用リフトの導入に伴う浴室の改修に加え、利用者の高齢化などによるADLの低下に対応するための生活環境の改善を行っていききたいと考えている。

カ) 社会福祉法人新会計基準移行後の円滑・正確な運用と専決事項の徹底について

事業における会計処理を適正に行えるよう、ひとつひとつの処理について新会計基準や細則を常に参考にするとともに、法人本部との連携を密にし、法人内における理解と運用の統一に努めた。このことについては次年度以降も、引き続き取り組んでいきたい。

キ) 給与事務の法人本部一元化について

今年度から給与事務が法人本部に一元化されたため、給与に係る変更事項が生じた場合には速やかに本部に伝達出来るよう努めていたが、職員に対しての呼びかけが十分では無かったため、年末調整の時期に住所変更などの報告が多く上がる結果となってしまった。このことを踏まえ、今後は全職員への周知と速やかな報告の徹底を確立出来るよう努めていきたい。

8-2 社会福祉法人に求められる課題を踏まえつつ利用者等のサービスの質向上に努めることについて

ア) 地域福祉・医療への取り組みについて

今年度は、海上寮療養所より新たに3名が入居している。社会的入院の解消と、精神障害のある人の地域生活移行に関しては、今後も取り組んでいきたい。

触法障害者の受け入れについては、指定通院医療機関が決定し、平成28年度5月・6

月に計2名が入居予定となっている。保健・医療・福祉関係者の多職種チームアプローチだけでなく、弁護士・保護観察官との連携も強化して、利用者の変化に対応できる体制で支援していきたい。

イ) 権利擁護、虐待防止、差別解消に向けた取り組みについて

世話人会議において、袖ヶ浦の虐待事件の裁判記録を読みレポートを作成、グループディスカッションを行い、虐待とはどのような時に起きるのか一人一人が考え、虐待防止の意識を高めた。また、アンガーマネジメントの研修を行い、支援場面での感情コントロールの方法を身につけた。そして、グループホームの環境が閉鎖的になりやすいため、広域専門指導員が各ホームを訪問し、利用者の声を拾える機会を作った。利用者が困った時に相談できる窓口を周知し、問題が深刻化・長期化しない環境を継続して作っていきたい。

ウ) 専門性や特徴のあるサービスの実施について

様々な形態のホームを運営し、1法人で利用者を抱え込まずに他法人と連携して支援を行っている。医療・保健・福祉・司法の多職種連携を行い、1事業所では解決できない困難な問題に対応している。高齢化・医療的ケアが必要な利用者の対応に関しては、ロザリオ訪問看護ステーション・ソフィアと医療連携を継続している。

エ) サービス提供上必要な事項の全体的点検と基本的事項の順守について

サービス等利用計画の内容をふまえて、個別支援計画の作成を行っている。モニタリングの実施方法や策定の段階でのケース会議の実施方法は今後の課題として残っているため、来年度検討していきたい。

オ) 研修体制及び内容の充実について

内部研修（OJT）に関しては、毎月世話人会議の中で研修を行った。外部研修で得た情報をもとに、リフレーミング、アンガーマネジメントを学ぶ機会や外部講師を依頼し「糖尿病予防と対応」について学んだ。外部研修（OFFJT）の機会については、情報提供をすることや、本人の希望を考慮しながら代替えの世話人を確保できる体制を取るなどした。海匠・香取圏域合同世話人研修会には7名の職員が参加をした。

カ) 苦情解決の仕組みの周知徹底と適切な解決について

ポスターの掲示や各ハウスミーティング等での周知を行った。契約時に丁寧に説明し、相談機関が複数ある事を伝え、利用者や家族が問題を抱え込み長期化・深刻化しないように周知している。

キ) 地域のニーズに合わせたサービスの展開について

法人内からは、海上療養所、聖家族園、友の家、海匠ネットワークなどからグループホームの利用希望が出ている。建物の確保がうまくいかず、今年度の開設は延期となってしまったが、来年度中にニーズに応えられるようにしていきたい。また、海匠圏域設置者会の中で行ったニーズ調査でもニーズの確認が出来た。学校からの卒業生の受け入れも含めて、今後も必要があれば対応していきたい。

8-3 法人の総合的な安全衛生対策の向上について

ア) 法人全体の防災・防犯対策の向上と地震・津波への備えについて

年2回の防災訓練と法人合同防災訓練を実施した。昨年度行った、消防団と連携しての訓練に関して、今年度は天候不良により行えなかった。セコムとは継続契約をしており、防犯シールを貼り防犯対策をしている。

防犯対策として、事務所センサーライトが故障しており、新しい機種に交換した。

津波想定訓練を実施、救命胴衣を着用し避難を行っている。また、ターポリン担架を使用し、2階への避難を訓練している。

夜間想定訓練を行い、利用者のみでの避難をするホームへの協力方法の確認を行った。

消防設備の点検については、防災設備会社と契約し年2回の点検を行った。

火災対策として、下立ハウスに自動火災報知設備・連動型自動火災通報装置を設置した。

また、各ホームの共有スペースにおいて、防災カーテンの設置を完了させた。

イ) 利用者等安全対策の向上について

加齢による身体機能の低下があり、手すりの設置、センサーライトの設置を必要に応じて行った。

ウ) 職員メンタルヘルスの対策の向上について

今年度はメンタルヘルスの研修を行った。職場環境の特性として孤立化しやすく、職員自身のセルフケアも大事になるため、今後も同様の研修を行っていききたい。また、今後はストレスチェックに関しても検討していききたい。

エ) 安全運転対策の向上について

春と秋の全国交通安全週間期間中の、のぼり旗の設置や6月の交通安全講習の実施など、年間を通し安全運転に関する注意喚起を行った。

年間を通して2件の車両事故があった。対人についての事故はなかったが、日常的に車を使用する支援が多いため、日頃から注意喚起を行った。

オ) IT・情報管理対策の向上について

外部からウイルスの入ったメールが外部から法人へ送られてくる事があった為、覚えのないアドレスからのメールを開かないよう事業所内で徹底した。

また、利用者の個人情報外部からの人間にみられないよう、保管場所や保管方法についての確認・徹底を事業所内で行った。

9 その他の報告事項

9-1 建物に係る修繕及び工事

(1) 野中ハイツI・II屋根・外壁改修工事

野中ハイツI・IIの建物について、平成8年2月よりおよそ20年が経過し、屋根や外壁に老朽化による破損や汚れが目立つようになったため改修工事を計画した。

なおこの計画については、工事に係る費用が250万を超えることが見込まれたため、理事会において計画の承認と入札に関する諸手続きなどを審議したうえで工事を施工した。

27. 7. 22 第194回理事会（計画、入札方法（指名競争入札）
27. 8. 26 第196回理事会（入札参加業者の選定）
27. 9. 15 入札（落札業者 株式会社伊藤工務店）
27. 9. 30 第197回理事会（契約）
27. 10. 1 契約
27. 12. 26 完成
工事金額 6,156,000円（自己資金）

（2） 矢指ハウス 浴室改修工事

矢指ハウスに居住する4名の利用者全員が車椅子を使用し生活をしている。このことから支援に係わる職員の身体への負担を少しでも軽減することを目的に、入浴介助の際に使用できる専用のリフトの導入を検討し、同時に浴室の改修を行うこととした。

27. 5. 20 ナザレの家あさひ経営会議起案
27. 6. 15 決裁
27. 6. 23 契約（株式会社伊藤工務店）
27. 6. 24 着工
27. 7. 22 完成
工事金額 990,000円（自己資金）

（3） 野中ハイツⅡ 浴室修繕工事

野中ハイツ2階の浴室の目地などを含む浴槽から水漏れが発生し、階下の脱衣室の天井や壁にその影響が出てしまった。野中ハイツの建物が20年を超える物件であり老朽化によるものと考えられたため浴室の修繕を行うこととした。

28. 1. 20 ナザレの家あさひ経営会議起案
28. 1. 25 決裁
28. 2. 2 契約（株式会社伊藤工務店）
28. 2. 3 工事着工
28. 3. 22 完成
工事金額 831,600円（自己資金）

（4） 下立ハウス 自動火災報知設備設置工事

下立ハウスでは、既にスプリンクラー設備を整備しているが、定員5名のうち1名が車椅子を使用していることや喫煙者も4名いるなどの理由から防災設備をさらに充実させるため、自動火災報知設備・連動型自動火災通報装置を設置することとした。

27. 11. 18 ナザレの家あさひ経営会議起案
27. 12. 21 決裁
28. 1. 6 契約（有限会社山崎防災設備）
28. 1. 7 工事着工
28. 2. 17 完成（消防検査）
工事金額 570,564円（自己資金）

（5） 矢指ハウス 浴槽改修工事

このことについては、今年度入浴用リフトを導入するにあたり浴室の改修を実施したところであるが、実際に使用中で利用者の体型や入浴時の姿勢などを考慮した結果、浴槽の規格について再検討する必要が認められたため、浴槽の改修を実施することとした。

27. 9. 16 ナザレの家あさひ経営会議起案
 28. 1. 18 決裁
 28. 2. 19 契約（株式会社伊藤工務店）
 28. 2. 11 工事着工
 28. 3. 29 完成
 工事金額 518,400円（自己資金）

（6）若衆内ハウス 居室修繕工事

利用者の退去に伴い、居室の床や壁などにおいて老朽化による傷みが多く認められたため、修繕を行うこととした。

27. 7. 15 ナザレの家あさひ経営会議起案
 27. 7. 27 決裁
 27. 7. 28 契約（株式会社伊藤工務店）
 27. 7. 29 工事着工
 27. 8. 1 完成
 工事金額 259,200円（自己資金）

10 1年のあゆみ

27. 4. 1 辞令交付式
 4. 4 いちご狩り
 5. 21・22 野中ハイツ I 一泊旅行（西伊豆）
 6. 6 交通安全講習会
 6. 25・30 全ホーム防災訓練
 7. 10～12 広原ハウス一泊旅行（京都）
 7. 11・12 第12回日本グループホーム学会・京都大会
 8. 1 夕涼み会
 8. 30 ミュージックフェスティバル
 9. 2 合同防災訓練
 9. 27 第26回ロザリオ福祉まつり
 9. 29・30 大割ハウス一泊旅行（長野）
 9. 30～10. 2 国サービス管理責任者研修
 10. 7 創立記念行事
 10. 16 西足洗ハウス日帰り旅行（横浜）
 10. 27～11. 11 城西国際大学実習生2名（2週間）受け入れ
 11. 16・17 県サービス管理責任者研修
 11. 25～12. 10 城西国際大学実習生2名（2週間）受け入れ
 11. 26 千葉県監査
 12. 5 障害者週間行事
 12. 26 もちつき大会
 28. 1. 4 新年挨拶会
 1. 24 千葉県障害者グループホーム大会
 2. 2・3 サービス管理責任者フォローアップ研修
 2. 25 合同研修会
 3. 8～11 美作大学実習生6名（4日間）受け入れ
 3. 11 矢指ハウス日帰り旅行（船橋）

- 3. 23・24 全ホーム防災訓練
- 3. 30 仲町ハウス日帰り旅行（東京）

Ⅱ 利用者の概要

1 ナザレの家あさひ

1-1 利用者の平均年齢
55.15歳

1-2 日中活動の状況
就労 2人、生活介護施設 16人、就労継続B型施設 16人、
高齢者デイサービス 1人、その他 43人
移動支援 15人、行動援護 2人、重度訪問介護 4人 *重複あり

1-3 出身地の状況
旭市 22人、市原市 1人、香取市 2人、匝瑳市 6人、山武市 3人、
千葉市 3人、銚子市 14人、東金市 1人、東庄町 1人、成田市 1人、
船橋市 3人、松戸市 1人、四街道市 1人、
東京都（江東区 1人、渋谷区 1人、台東区 1人、江戸川区 1人、
中央区 1人、板橋区 1人、八王子区 1人、目黒区 1人）
茨城県 1人、横芝光町 1人、習志野市 1人、袖ヶ浦市 1人、
茂原市 2人、勝浦市 1人、市川市 2人、多古町 1名、埼玉県 1名
計 30区市町

1-4 障害支援区分
非該当 3人、区分1 1人、区分2 18人、区分3 23人、
区分4 15人、区分5 9人、区分6 9人
平均障害程度区分 3.43

1-5 入退去の状況

入居	4名
自宅より	1名
病院より	3名
退去	4名
他施設へ	1名
逝去	3名

2 ホーム別概要

2-1 野中ハイツI

(1) 利用者の年齢
43歳 1人、63歳 1人、64歳 1人、65歳 1人、71歳 1人
平均年齢 61.2歳

(2) 日中活動の状況

就労継続B型施設 2人、その他3人

(3) 出身地の状況

旭市 3人、銚子市 2人

(4) 障害支援区分

区分2 3人、区分3 2人

2-2 野中ハイツII

(1) 利用者の年齢

26歳 1人、51歳 1人、58歳 2人、60歳 1人
平均年齢 50.6歳

(2) 日中活動の状況

その他 5人

(3) 出身地の状況

旭市 1人、銚子市 2人、匝瑳市 1人、袖ヶ浦市 1人

(4) 障害支援区分

区分2 2人、区分3 2人、区分4 1人

2-3 若衆内ハウス

(1) 利用者の年齢

29歳 1人、41歳 1人、65歳 1人、66歳 2人
平均年齢 50歳

(2) 日中活動の状況

その他 4人、就労継続B型施設 1人

(3) 出身地の状況

旭市 1人、東庄町 1人、茂原市 1人、銚子市 1人、東京都 1人

(4) 障害支援区分

非該当 1人、区分2 1人、区分3 2人、区分4 1人

2-4 横大道ハウス

(1) 利用者の年齢

36歳 1人、44歳 1人、49歳 1人、53歳 1人、57歳 1人
60歳 1人
平均年齢 49.8歳

(2) 日中活動の状況

就労継続B型施設 3人、生活介護施設 3人

(3) 出身地の状況

旭市 4人、銚子市 2人

- (4) 障害支援区分
区分3 2人、区分4 3人、区分5 1人
- 2-5 中川ハウス
- (1) 利用者の年齢
39歳 1人、45歳 1人、59歳 1人、65歳 1人
平均年齢 52.0歳
- (2) 日中活動の状況
生活介護施設 3人、その他 1人
- (3) 出身地の状況
香取市 1人、匝瑳市 1人、山武市 1人、船橋市 1人
- (4) 障害支援区分
区分5 2人、区分6 2人
- 2-6 萩園ハウス
- (1) 利用者の年齢
39歳 1人、40歳 1人、50歳 1人、68歳 1人
平均年齢 49.2歳
- (2) 日中活動の状況
就労 1人、生活介護施設 2人、高齢者デイサービス 1人
- (3) 出身地の状況
旭市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、四街道市 1人
- (4) 障害支援区分
区分4 3人、区分5 1人
- 2-7 東足洗ハウス
- (1) 利用者の年齢
40歳 1人、54歳 1人、63歳 1人、70歳 1人、
平均年齢 56.7歳
- (2) 日中活動の状況
生活介護施設 4人
- (3) 出身地の状況
匝瑳市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、東金市 1人、
- (4) 障害支援区分
区分4 2人、区分6 2人
- 2-8 西足洗ハウス
- (1) 利用者の年齢
38歳 1人、57歳 2人、76歳 1人
平均年齢 57.0歳

- (2) 日中活動の状況
就労1人 その他 3人
- (3) 出身地の状況
山武市 1人、銚子市 1人、成田市 1人、船橋市 1人
- (4) 障害支援区分
区分1 1人、区分3 3人

2-9 広原ハウス

- (1) 利用者の年齢
39歳 1人、62歳 1人、64歳 1人、67歳 1人、
68歳 1人、71歳、1人
平均年齢 61.8歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 5人
- (3) 出身地の状況
旭市 1人、銚子市 2人、市原市 1人、習志野市 1人、船橋市 1人
- (4) 障害支援区分
区分2 2人、区分3 3人、区分4 1人

2-10 大割ハウス

- (1) 利用者の年齢
44歳 1人、64歳 1人、76歳 1人、79歳 1人、87歳 1人
平均年齢70.0歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 4人
- (3) 出身地の状況
旭市 1人、東京都 3人、茨城県 1人
- (4) 障害支援区分
非該当1人、区分2 1人、区分3 2人、区分4 1人

2-11 対馬ハウス

- (1) 利用者の年齢
25歳 1人、54歳 1人、63歳 1人、79歳 1人
平均年齢 55.2歳
- (2) 日中活動の状況
生活介護施設 3人、その他 1人
- (3) 出身地の状況
旭市 3人、埼玉県 1人

- (4) 障害支援区分
区分2 1人、区分5 2人、区分6 1人

2-12 下立ハウス

- (1) 利用者の年齢
37歳 1人、45歳 1人、57歳 1人、
67歳 1人、85歳 1人
平均年齢 58.2歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 4人
- (3) 出身地の状況
銚子市 1人、香取市 1人、旭市 1人、匝瑳市 1人
横芝光町 1人
- (4) 障害支援区分
区分3 2人、区分4 2人、区分6 1人

2-13 生沼ハウス

- (1) 利用者の年齢
21歳 1人、65歳 1人
平均年齢 43歳
- (2) 日中活動の状況
その他 2人
- (3) 出身地の状況
旭市 1人、松戸市 1人
- (4) 障害支援区分
区分5 2人

2-14 矢指ハウス

- (1) 利用者の年齢
42歳 1人、51歳 1人、56歳 1人、65歳 1人
平均年齢 53.5歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型 1人、生活介護施設 1人、その他 2人
- (3) 出身地の状況
旭市 2人、銚子市 1人、茂原市 1人
- (4) 障害支援区分
区分4 1人、区分6 3人

2-15 小割ハウス

- (1) 利用者の年齢
29歳 1人
平均年齢 29.0歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型(週1日午前中のみ) 1人
- (3) 出身地の状況
銚子市 1人
- (4) 障害支援区分
区分5 1人

2-16 仲町ハウス

- (1) 利用者の年齢
58歳 1人、67歳 2人、70歳 1人、72歳 1人
平均年齢 66.8歳
- (2) 日中活動の状況
その他 5人
- (3) 出身地の状況
勝浦市 1人、市川市 2人、東京都 2人
- (4) 障害支援区分
区分2 2人、区分3 3人

2-16 折戸ハウス I

- (1) 利用者の年齢
22歳 1人、48歳 1人、58歳 1人、66歳 1人
平均年齢 48.5歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 2人、その他 2人
- (3) 出身地の状況
多古町 1人、東京都 2人、千葉市 1人
- (4) 障害支援区分
区分2 4人

2-16 折戸ハウス II

- (1) 利用者の年齢
29歳 1人、31歳 1人、43歳 1人、59歳 1人、65歳 1人
平均年齢 45.4歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 3人、その他 2人

- (3) 出身地の状況
旭市 2人、匝瑳市 2人、山武市 1人
- (4) 障害支援区分
非該当 1人、区分2 2人、区分3 2人

Ⅲ 支援の概要

1 日課等

利用者個々の状況に合わせて、以下の支援の提供を関係者と協力しながら行った。

- (1) 利用者に対する相談
- (2) 食事の提供
- (3) 健康管理・金銭管理の援助
- (4) 余暇活動の支援
- (5) 緊急時の対応
- (6) 職場等との連絡・調整
- (7) 財産管理等の日常生活に必要な援助
- (8) 食事や入浴、排せつ等の介護等
- (9) 体験利用

2 部門別報告

2-1 管理者・サービス管理責任者

特定相談支援事業所と連携を行い、利用者の変化に応じて、ケース会議を実施する機会が増えている。モニタリングの結果を共有し、利用者への支援を複数の視点で検討するようになり、支援方法の選択肢が増えた事や、役割分担を行い重層的に利用者へ関わられるようになった。

重症心身障害者、医療的ケアの必要な方、触法障害者への対応は、関係機関と連携して、多職種連携で支援を行っている。また、加齢による身体機能の低下、認知症等の疾病により支援が必要になった方に対しては、介護保険サービスとの併給を調整し、ケアマネージャーと連携して対応を行った。

警察、弁護士、不動産等との連携場面もあり、障害のある人を支える仕組みについて、今後も相互に意見を交わし地域づくりをしていきたい。

2-2 世話人・生活支援員

月1回の世話人会議において、事務連絡等の情報提供後に研修を行っている。

職員の数も多くなり、職員間のコミュニケーションが徐々に難しくなっている。しかし、コミュニケーション能力向上が支援の向上に大きく関わっていると考えるため、今後はミーティング等を通して深めていきたい。海上療養所連絡会、国保旭中央病院連絡会、個別のケース会議などに参加し、日々の支援の向上に努めた。

外部研修の参加を勧め、本人の希望を考慮しながら代替の世話人を調整し参加できる体制を取っていく方針は示したが、外部研修への参加率は大幅には上がっていない。来年度も継続的に周知をしていきたい。

2-3 事務員

研修への参加において、日本グループホーム学会の研修と、法人内で今年度から開催された事務研修に参加した。日本グループホーム学会の研修では、利用者

側からの、事業所や職員の対応などへの意見や要望を傾聴する機会を、法人内事務研修では、基本的なマナーや心構えだけでなく、社会情勢の変動を見据えながら職務を遂行していく必要性などを学んだ。

支援員や世話人の異動や増員などにより、50名近くの職員数になり、利用者に係る伝達事項や職員個人への連絡や事業の運営に係る伝達事項について迅速かつ正確に行えるよう努めた。

利用者や家族、関係者等との関わりについて、様々な障害特性への理解を深めるとともに、適切かつ誤解が生じないよう丁寧な対応を心掛けた。

利用者の金銭管理について、支援員・世話人・事務員で連携し、定期的に確認を行うよう心掛けていたが、記帳の際の数字の書き間違いや計算違いなど単純ミスが見られたため、次年度以降は確認の機会を増やすと共に、金銭を扱う環境（世話入室）の見直しを行い必要に応じて改善を行っていく。

建物や設備等の老朽化や生活環境の整備において、工程や資金面など計画的に遂行できるよう関係者間での調整を行った。軽微な修繕や備品の故障などについては迅速に対応できるよう、現場や状況の確認を行い、修理依頼及び日程調整等円滑に行えるよう努めた。また今年度は職員の身体への負担軽減を目的に、入浴用リフトの導入を実施した。このことについては次年度以降も引き続き取り組んでいきたいと考えている。

防災関係において、下立ハウスに自動火災報知設備・連動型自動通報装置を設置した。また、各ホームの共有スペースにおいて、防災カーテンの設置を完了させた。

次年度には新たなグループホームの開設を予定している。利用者や職員についても増員が見込まれるため、様々な業務について迅速かつ正確に行えるよう、報告・連絡・相談の徹底に努めていきたい。

2-4 野中ハイツ I

年齢的にも高齢の方が増えてきていることもあり、海上寮療養所との医療連携体制や訪問看護を利用し、病状の変化に対応できる体制を整えている。利用者1名については状況が日々変わり、訪問看護等と連携をとりながら支援をしている。

月に一度、利用者が行きたい所を決めて外食・外出をすることを全員が楽しみにしており、継続して行かれるよう調整をしている。また、5月に利用者の希望で西伊豆へ泊旅行に行っており、来年度も旅行へ行きたいという希望があった。

老朽化に伴い、野中ハイツ全体の改修・修繕を実施している。

2-5 野中ハイツ II

買い物支援については、希望がある限り行う事ができた。利用者ミーティングと共に継続して行っていきたい。

現在服薬管理が必要な利用者が2名おり、職員で薬を保管し、服薬確認を継続していたが、薬の自己管理までには至らなかった。

1名については1年間情緒不安定な状態が続き、自傷や自室破損など続いてしまった為、今後も精神状態が安定するよう見守っていきたい。

老朽化に伴い、野中ハイツ全体の改修・修繕を実施している。

2-6 若衆内ハウス

4月に1名が逝去により退去となったが、11月より1名が入居し、5名で生活をしている。逝去された方に関しては、神経科病院に長期入院されており2012年5月8日に入居され4月16日まで、約3年間の利用であった。感染症もあったため、訪問看護なども利用しながら暮らしていたが、4月16日に自室に

て亡くなっているのを発見された。死因は心筋梗塞であろうとのことであった。

利用者より、朝食希望が出た為、朝食提供を開始している。利用者1名は楽器を習い、デイケアのメンバーとミュージックフェスティバルに演奏発表をしている。外出については、月1回の食事会を実施した。また、3月に東京ドイツ村へ外出を行った。喫煙については火災予防の為、決められた場所で喫煙を行うように継続して伝えている。

現在、就労継続B型の事業所の利用を検討している利用者があり、今後も相談等の支援を継続して行っていく。

近隣住民との関係性を保つため、町内会のドブ掃除に利用者として参加をしている。

2-7 横大道ハウス

町内会への参加や近隣住民への挨拶等、地域交流は継続して行っている。

土日の余暇活動について、一人で買い物に出かける事が難しくなっている利用者があり、移動支援のヘルパーを利用している。

2-8 中川ハウス

重度知的障害者が入居しており、複数の支援者や事業者が関わっている。毎日のミーティングや、日中活動先との連絡会において情報共有をし、支援を行った。

また、世話人の支援方法の違いによって、利用者が混乱をしないよう確認を行った。

身体障害のある方のADLの低下によって転倒も多い。転倒の危険性や身体介護の負担軽減のため入浴用リフトの導入を来年度検討していきたい。

2-9 萩園ハウス

週末は移動支援のヘルパーを活用し、プール教室や買い物、散歩など個別の関わりを大切にしている。これまで築いてきた地域との信頼関係を大切にし、地域のイベントにも積極的に参加している。

高齢の利用者もいる為、バランスの良い食事や運動を心がけていきたい。

2-10 東足洗ハウス

現在、4名の利用者が他法人の生活介護事業所を利用しており、密に連絡をとりあいながら支援を行っている。

日々のバイタルチェックや、医療機関や日中活動先と連携して、日々の健康状態の確認を継続して行っている。今年度も地域のイベントへ参加等、地域との交流は継続して行っており、来年度も継続して支援していきたい。

1名の利用者さんが逝去された。在宅で暮らしていたが、2008年の6月1日に入居され8月10日までの約7年間の利用であった。79歳になり徐々に体力の衰えが見られ、肺炎を発症し入院となり、治療中に息を引き取った。

現在、来年度1名の入居が予定されており、試泊を続けている。

2-11 西足洗ハウス

利用者4名が一緒に生活を初めて10年半が経過した。近隣住民との関係は利用者自身で挨拶や日常的な会話を積極的に行えており、良好である。利用者間の関係としては、精神症状に左右されて相手の症状に疲れてしまう事もあるため、世話人によるフォローが必要であった。また、交友関係の広い利用者もあり、対人面での課題があれば確認し本人と解決をしている。月一回の食事会・外出を継続できている。

2-12 広原ハウス

利用者の一人が水腎症にかかり、支援体制を強化して対応していたが、症状の悪化により、現在入院中である。退院後の生活を見据え、医療機関との連携を行いながら支援体制の見直し等を行っていく。

6月に利用者の希望で利用者2名、職員2名の計4名で京都へ2泊3日の旅行へ行っている。来年度も継続して外出や旅行等の企画・実施を行っていく。

2-13 大割ハウス

今年度も、計画していたハウス全員での長野県への一泊旅行へも予定通り行く事ができた。事業所内でも最高齢の利用者もいるが、日中活動も含め、楽しい生活が送れるよう支援していきたい。

2-14 対馬ハウス

日中活動先・通院先が利用者ごとに複数あり、連絡調整について不備がないように支援を行った。利用者の些細な変化に注意し、その対応方法を関係機関と連携して調整対応している。利用者1名が水頭症の手術入院、他1名精神疾患による休息入院があった。

2-15 下立ハウス

防災対策として、共有スペースのカーテンを防災のものに交換、自動火災報知機設備の設置を行っている。また、今年度も消防署の立ち会いの下に防災訓練を行っている。

クロザリルの新薬投与をしている利用者の1名は、不眠や環境変化により精神状態が安定しないときもあり、関係機関と連携して対応している。

飲酒による階段転倒事故があり、お酒の飲み方について確認を行った。その後引きこもり傾向なので、買い物外出の声かけを行う等、外出の機会が増えるよう支援をしている。

2-16 生沼ハウス

3名定員の女性のグループホーム。街中にあるグループホームということを生かしてコンビニなどへ買い物に行くなどして生活している。

1名の利用者さんが逝去された。在宅で暮らしていたが、就職とともに、2009年9月1日に入居され5月5日まで、約6年の利用であった。定期的に外泊をされていたのだが、外泊中両親が外出している間に、自室にて亡くなっていた所を発見された。死因は心筋梗塞であろうとの事であった。空き室については、試泊を重ねている利用者があり、翌年度4月に入居予定となっている。

2-17 矢指ハウス

利用者4名がそれぞれ日中活動先に通うようになり、QOLの向上に結びついている。そして、利用者全員が介護を要するため、介護負担軽減の為、浴室改修を行い、入浴用介護リフターを導入し、利用者・世話人とも入浴時の負担を軽減した。

2-18 小割ハウス

1年を通して、不穏になる機会は減ったが、起床時間が遅くなってしまったり、薬の副作用による水分摂取量が増える結果になっている。毎月の外出については2人体制で行っている。毎月のケース会議を主治医・家族・関係機関と行い、情報共有と対応方法の確認を行っている。

2-19 仲町ハウス

月1回の食事会については、継続して行っており、来年度以降も継続して食事会の機会を作っていく。

火災への対策として、利用者が煙草を吸っている部屋のカーテンを防災の物に変更している。また、防災訓練等には積極的に参加するよう支援している。

関係機関との定期的な連絡会、必要に応じてのケース会議を行っており、状況に応じた関係機関との連携については今後も継続して行っていく。

2-20 折戸ハウス I

一昨年の4月1日から開設したワンルームと3Kを利用したグループホーム。

1年間が皆不慣れの中でのスタートであったが、慣れてくるに従い、それぞれの問題も出てきた。個別支援計画に基づき、その都度支援していきたい。

地域との交流については、不慣れな事もあり、なかなか参加する事ができなかった。今後はゴミゼロ運動などを通し、交流を深めていきたい。

利用者・世話人を交えてミーティングを行い、食事会などもミーティングで決める事ができたので、今後も続けていきたい。

来年度2名の入居が予定されており、試泊を続けている。

2-21 折戸ハウス II

折戸ハウス Iと同様に一昨年の4月1日に開設した、ワンルームタイプのグループホーム。

本年も地域のゴミゼロ運動に参加する事ができた。地域の一員である事への意識が芽生え、「外にゴミを捨てない」という感覚も養う事ができた。

誕生日会は希望により折戸ハウス内で行ったり、外食をしたり、入居者が一同に介して談笑でき、少しでも楽しく過ごされる時間が持てた為、今後も継続していきたい。

利用者の全員が日中活動をしており、うち1名は日中活動の場をデイケアに変更し、自発的に参加している。

利用者1名が単身生活を目標にしており、来年度以降の自立に向けて、支援を行っている。

IV 運営管理の概要

1 会議、委員会

毎月1回、下記の会議、委員会を行った。

- ・経営会議
- ・施設・事業所長会議
- ・法人グループホーム運営会議
- ・世話人会議
- ・各グループホームミーティング
- ・海上寮地域生活支援連絡会（隔週金曜日）
- ・旭中央病院連絡会
- ・地域生活支援会議
- ・総合安全対策委員会
- ・海匠世話人会議
- ・海匠設置者会（年2回）
- ・あい支援センター連絡会

- ・聖家族作業所連絡会
- ・その他、必要に応じて、ケース会議、調整会議を行う

2 地域との連携（交流）

2-1 行事

地域住民との連携については、野中地区の行事参加やもちつき大会において黒潮会の協力を頂くなど、交流の機会を継続的にもっている。

萩園ハウス 町内会活動（祭り・海岸清掃等）
 若衆内ハウス 町内会活動（町内清掃・区民会館清掃等）
 横大道ハウス 町内会活動（町内清掃等）
 野中ハイツⅠ 町内会活動（町内清掃等）
 野中ハイツⅡ 町内会活動（町内清掃等）
 下立ハウス 町内会活動（町内清掃等）
 対馬ハウス 町内会活動（町内清掃等）
 大割ハウス 町内会活動（町内清掃等）
 矢指ハウス 町内会活動（町内清掃等）

2-2 ボランティア

黒潮会 4名 もちつきボランティア
 城西国際大学 学生 3名 もちつきボランティア
 学生 1名 ロザリオ福祉祭り
 有志ボランティア 1名 もちつきボランティア
 1名 夕涼み会ボランティア

2-3 見学者

27. 5. 7 国保旭中央病院 医療スタッフ
 5. 26 聖路加国際病院研修医
 6. 3 海上寮療養所 入居希望者 医療スタッフ
 6. 9 聖路加国際病院研修医
 6. 30 聖路加国際病院研修医
 7. 2 入居希望者
 7. 17 みんなの家 入居希望者
 7. 21 海上寮療養所 入居希望者
 7. 29 海上寮療養所 入居希望者
 8. 18 聖路加国際病院研修医
 8. 22 みんなの家 入居希望者
 9. 15 聖路加国際病院研修医
 9. 29 聖路加国際病院研修医
 10. 22 元気村 利用希望者
 11. 2 聖路加国際病院研修医
 11. 7 県外基幹型相談支援事業所
 11. 17 聖路加国際病院研修医
 12. 1 聖路加国際病院研修医
 12. 8 聖路加国際病院研修医
 28. 1. 12 聖路加国際病院研修医
 1. 26 聖路加国際病院研修医

- 3. 3 入居希望者
- 3. 17 海匠ネットワーク 入居希望者

その他、相談事業所、病院関係者、グループホーム利用希望者等に対して、随時見学案内を行った。

2-4 実習生

- 27. 10. 27～11. 11 11. 25～12. 10 城西国際大学 2名
- 28. 3. 8～ 3. 11 岡山県美作大学 6名

3 防災、緊急時の対策

3-1 総合安全対策委員会

毎月の重点項目について、世話人会議・各ハウスミーティング等で、委員会から配布された資料を配布するなどして周知を行った。

3-2 防災訓練・防災対策

- 27. 6. 25・30 全グループホーム防災訓練（地震 津波想定）
- 27. 9. 2 合同防災訓練
- 27. 9. 7 消防設備点検
- 27. 10. 20 消防署立ち入り検査
- 28. 3. 3 消防設備点検
- 28. 3. 22・23 全グループホーム防災訓練（夜間想定）
- 28. 2. 19 防火管理者選任届提出

4 福祉サービスの向上

平成24年度福祉サービス共通基準自己評価結果に基づいた改善計画について、福祉サービス共通基準の評価においては「利用者の相談や苦情受付の仕組み」の項目が低かった。来年度は、利用者への苦情受付の仕組みを周知し、風通しの良い環境作りをしていく必要がある。

5 権利擁護

世話人会議において虐待事件の記事を読み、その対応策について考える機会をもち、虐待防止の意識を高めた。また、アンガーマネジメントの研修を行い、現場で直面する怒りに対する感情コントロールの方法を学んだ。

閉鎖的な環境を軽減するため、広域専門指導員に訪問を依頼し、ホーム内の風通しを良くし、外部機関の相談先の周知を行った。

6 苦情解決

苦情受付・解決件数1件
野中ハイツI 食材について 1件

7 情報公開

ホームページの開設を行い、随時更新を行っている。

8 職員の動向

8-1 職員の異動

27.	4	吉田	友美異動
27.	4	荒井	貴徳採用
27.	6	関口	美保採用
27.	6	大森	律子退職
27.	9	島田	泰子採用
27.	10	伊東	隆子採用
27.	11	神津	登茂子退職
27.	12	江森	達八退職
28.	1	石毛	八千代異動
28.	1	今井	早智子採用
28.	1	渡辺	喜美枝採用
28.	2	根本	大輝採用
28.	2	鷺山	暖佳採用
28.	3	穴澤	大地退職

8-2 休暇等の状況

	人数	年間発生日数	取得日数	半期平均取得日数	取得率 (%)
常勤職員	6	175.0	52.8	8.8	30.1%
(昨年度)	(5)	(158.0)	(48.80)	(9.8)	(30.9%)
非常勤職員	29	599.70	389.93	13.4	65.0%
(昨年度)	(32)	(657.50)	(434.70)	(13.6)	(66.1%)
合計	35	776.70	442.68	12.6	57.1%
昨年度	(37)	(815.50)	(483.50)	(13.1)	(59.3%)

平成27年度は常勤・非常勤職員ともに、取得率は前年度とほぼ同水準に留まった。非常勤職員については目標である50%を超えることができしており、来年度はより一層の休暇取得を推進していきたい。また、常勤職員では0.4%の減少が見られたが、平成25年度から26年度における上昇率も加味し、平成28年度からの常勤職員の増員を踏まえて積極的な休暇取得を進めていく予定である。

8-3 衛生管理

全職員を対象にO-157の保菌検査及びインフルエンザの予防接種を行った。これらのことについては次年度以降も継続して実施していく。

8-4 研修

27.	6.	6	交通安全講習会
	7.	11・12	第12回日本グループホーム学会京都大会
	10.	26	糖尿病研修
28.	1.	24	千葉県障害者グループホーム大会
	2.	2・3	サービス管理責任者フォローアップ研修
	2.	25	海匠・香取世話人合同研修会

9 補助金・助成金

千葉労働局特定求職者雇用開発助成金	250,000円 (該当者1名)
東京都共同生活援助加算	615,981円 (江東区)
東京都共同生活援助加算	417,020円 (渋谷区)
東京都共同生活援助加算	141,700円 (目黒区)
障害者グループホーム運営費補助金	9,970,270円 (20市町村)

10 自立支援給付費請求額

訓練等給付費収入	171,533,120円
特定障害者特別給付費	9,346,109円
合計	180,879,229円

11 寄附物品 (敬称略)

	寄附者	寄附内容
1	木内 明美	米 (54kg)
2	石橋 啓子	米 (30kg)
3	高野 初津江	米 (30kg)

V 資料

別紙1 職種別職員一覧表 (平成28年3月31日現在の職員数)

別紙2 組織図 (平成28年3月31日現在の組織図)